

FROM THE HIGH SCHOOL EDUCATION

VOL.19

高校教育の現場から

生徒数減少の厳しい環境の中、 地域に根ざした部活動の取り組み

鈴木 良伸



Yoshinobu Suzuki

北海道札幌月寒高等学校教諭
(科目：地理、マンドリン部顧問)
北海道地理教育研究会事務局長
北海道高等学校地理教育研究会運営委員
北海道高等学校文化連盟石狩地区音楽専門部 器楽・
管弦楽部門専門委員

1962年 北海道千歳市生まれ
1986年 明治大学文学部史学地理学科
地理学専攻卒業(マンドリン倶楽部所属)
室蘭市立鶴ヶ崎中学校教諭
1987年 種別町立種別中学校教諭
1992年 北海道釧路東高等学校教諭
2001年 北海道室蘭商業高等学校教諭
2006年 北海道札幌月寒高等学校教諭(現職)

【主な著書】

【授業のための日本地理(第5版)】古今書院(地理教育
研究会・共著) 2010.10

現在勤務している札幌月寒高等学
校は全日制・定時制併置校で、全日
制だけでも全校生徒962名、教
職員が60名以上いる大規模校です。
毎年9割以上の生徒が大学に進学し、
今春は、北大を筆頭に国公立大現役
合格が120名を越えました。校
風はリベラルで生徒の自主性を重ん
じ「高い次元の文武両道」をスローガ
ンに、生徒達は活き活きと学校生活
を送っています。

かつて、札幌市内の学校は1クラ
ス45名で1学年10クラス、全校生徒
が1350名というのが普通でし

たが、北海道教育委員会の再配置計
画で小規模校の統廃合が進み、毎年
全道では数校単位で高校が無くなっ
ています。

そんな中、課外活動である部活動
の運営も転換期を迎えています。札
幌市内はまだ恵まれています。地
方においては人数の必要な野球やサ
ッカー、ラグビーなどの体育系団体
競技や吹奏楽部において、複数校が
合同で活動することがごく普通に行
われるようになりました。部活動が
活発で加入率が8割近い本校も、幾
つかの部活動は廃部に追い込まれ、

体育系も実績のある部以外、人数が
減少傾向です。本校に私が赴任した
のは、まさにこのような転換期を迎
えていた頃でした。

私は、明治大学ではマンドリン倶
楽部(マंकク)に所属し、長期休暇
を利用して全国を演奏旅行しておりま
した。地理を専攻し旅行好きで、楽
器演奏の経験もある私には、まさに
一石二鳥の活動だったのです。そん
なこともあり、前任校の室蘭商業高
でマンドリン部を指導させていただ
く機会を得ました。マंकク創立者・
古賀政男先生が直々に指揮・指導を



学校説明会での部活紹介ミニコンサート
2009.8.29



第25回親子ふれあいコンサート・
小学校合唱団とのジョイント
2011.9.24



みのり厚別(老人ホーム)新春コンサート
2012.1.7



第22回定期演奏会 2012.9.22

されたこともあるという80年近い伝統のある部でしたが、赴任した数年後、学校が統廃合の対象となりました。数年後の閉校に向け私も異動対象となりましたが、幸いにも札幌月寒高にマンドリン部があるということで、再びマンドリン部を指導させていただくことになりました。

赴任当時(7年前)は、部員が12名程度で何とかアンサンブルが出来る状態でしたが、数名にまで減った時期もあり存続の危機を何度も迎えていたとのこと。これも60周年を迎える伝統ある部ですが、毎年行っていた定期演奏会も途絶え、創立50周年記念演奏会もそのメンバーの多くが

OBで構成されたものでした。ただ活動の中で、老人ホームでの慰問演奏などは続いており大変感謝されているとのことでしたので、まずはこういった地域に根ざした活動から地道に取り組んでいこうと決意を新たにしました。

マンドリンには「哀愁ある」とか「もの悲しい」というイメージがあるため、それを払拭することを最初に意識しました。当時吹奏楽部は創立間もなかつたにも関わらず、地域のイベントやコンサートの活動を通じて、地域の方々に親しまれていました。まずはこれらのコンサートに出させてもらうことで部の存在を知っ

てもらい、レパートリーに歌謡曲や演歌・童謡・映画音楽(マンクラの経験が活かせました)なども取り入れ、多くの方に興味をもってもらうようにしました。するとどうでしょう。慰問演奏や地域イベントへの参加のお誘いをしだいに受けるようになっていったのです。

そうなる中学校でも注目され始めました。それまで吹奏楽の演奏で行っていた入学式にマンドリン部も出させてもらうこととなり、楽器の特性を生かし入退場は吹奏楽の伴奏で、式前の事前演奏と入学許可宣言でのBGM(パロック音楽を格調高く奏でます)、今年からは校歌紹介をマ

ンドリン部の伴奏で吹奏楽部員が歌うという形で行いました。中学生を対象とした学校説明会でも吹奏楽とマンドリン両部がそれぞれ最初と最後に演奏させてもらうこととなり、楽器そのものの珍しさもあって毎年20名以上の部員が入部、今では総勢60名を数えるまでに成長しています。4年前から定期演奏会も復活させ、今年ホールでの定員まであと50名というほどの大盛況ぶりでした。

活動自体は、楽器の演奏ということもあり日曜日以外は毎日ですが、音楽を愛するという共通の目的を持つ仲間が集まっており、自主性を重んじながら和気あいあいと楽しく活動しています。今でこそ、私たちの演奏を毎年楽しみに待っていて下さる方が大勢いますが、老人ホームでは、昨年聴いていただいた方が、今年はずでに3人お亡くなりになったと聞きました。こうしたことから、今後とも一期一会の精神で演奏会一つ一つを大切にしながら、地域の皆様と共に歩む部であり続けたいと思っております。